



### 選ばれるまち 須賀川 選ばれる教科 道徳

今年度も計画訪問、教科等教育研修講座、ジャンプアップ研修などで、多くの教師が道徳を選んでくださいました。「選

ばれるまち 須賀川」が達成されつつあり、「選ばれる教科 道徳」となりつつあると改めて感じました。

#### 令和4年度全国学力・学習状況調査

文科省、福島県の考え方に加えて、須賀川市の教育の特徴である「協同的な学び」を取り入れたものを「須賀川モデル」と呼んでいます。本市教委は、特別の教科道徳で平成29年度から、「須賀川モデル」を実践しています。その成果は数値とし令和4年度全国学力・学習状況調査にも表れています。

児童・生徒質問紙小中共に(Q48)に「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問事項がありました。

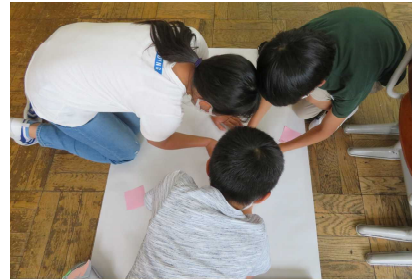
小中共に第一選択「当てはまる」では、県平均を9.2ポイント以上、全国平均を11.8ポイント以上、本市が上回っています。また、第一選択「当てはまる」と第二選択「どちらかといえば、当てはまる」の合計では、県平均を6ポイント以上、国平均を7.8ポイント以上、上回っており、大きな差の数値となっています。

特別の教科道徳では、「考え、議論する道徳授業」の実現を求められました。全国、県と比較した時、本市小中義務教育学校では充実した道徳の授業が展開されていると言えるでしょう。

また、市教委として、「児童・生徒に道徳性が身に付いているか」の指標として挙げてきた全国学力・学習状況調査10項目中、小学校で9項目、中学校で8項目で本市児童生徒は、全国の数値を上回っています。今年度も「道徳性が身に付いている」と推測できる結果が得られています。



今年度も成果の大きい1年となりました。



## 挑戦し続けた教師たちの 軌跡

### ～マインドマップと感動教材～

今年度も多くの教師が「協同的な学び」の質を高めるために、そして子どもの学びを確かなものとするために挑戦し続けてくださいました。教師の皆さんの挑戦を高く評価し、感謝する思いでいっぱいでした。

今年度参観して、その手法に大いに驚き感動したのが「マインドマップ」でした。

模造紙の中央に主発問を書き、そこから線を伸ばして自分の考えを書く。模造紙をそのままにして、グループ全員が別のグループの席に移動する。そこの考えを読み、賛同する考えから線を伸ばし、自分の考えを書き込んでいく。特に感動した考えを丸で囲んだり、シールを貼る。この席移動を数回繰り返す。

小学生も中学生も誰一人授業から落ちることなく、グループでの議論も活発で、教師の指示もなく30分以上議論を続けていました。大いに驚き、感動しました。「協同的な学び」がそこにありました。難しい主発問でも、全ての児童生徒が考え、議論していました。

次に、県教委「道徳の礎」にある、質の高い多様な指導方法には、感動、畏敬の念などでの発問例が示されていません。どうしても、感動、畏敬の念などの教材の指導は難しいとする教師もいるものです。

「王子やツバメのどんな心に感動したのかな」や「この話で心を動かされたところ」を主発問とし、考え・議論する活動をグループ展開する授業を参観できました。児童が友達から感動した所を聞き、自分の考えを深めていった姿を今も思い出します。

この主発問は、教師たちが挑戦し続けた結果、たどり着いたものだろうと感動しました。参観した者まで心動かされた授業でした。

オンラインなどで事前の打合わせをしますと、「こういう展開でやってみたいのです」の声ばかりでした。道徳に限らず、日々挑戦し続けていることがよくわかる教師ばかりでした。

「心の天秤」（熊本市教育センター「デジタル教材『心の数直線』）、「心のお手紙」などの新たな手法や余韻を残して授業を閉じる手法など、多くの皆さんに紹介したい授業がありました。

今年度も「協同的な学び」への教師の挑戦こそが、子どもたちを大きく成長させる手立てであると確信した1年間でした。

これらの授業実践をまとめた、「特別の教科 道徳 指導資料〈須賀川モデル〉 第5版 軌跡 挑戦し続ける教師たち - 『協同的な学び』へ -」は、令和5年2月末頃に各学校へ配付する予定です。

ご活用ください。

なお、「須賀川モデル」のバックナンバーご希望の方はセンターへお知らせください。電子データをお送りいたします。

